



「パチンコ依存問題」の相談機関が始動

「パチンコ依存」に悩む人や家族を支援する全国で初めての取り組みが始まりました。これは、社会や生活不安の増加を背景に、過度なパチンコやギャンブルへと傾斜した結果、暮らしのバランスを見失い、自己破産や家庭崩壊を引き起こす要因になっていることを重くみた精神科医らが相談機関を設置、4月19日から活動を開始しています。

注目の機関は『ぱちんこ依存問題相談機関 リカバリーサポート・ネットワーク』(代表／西村直之・精神科医)。事務局は沖縄県西原町に設置され、パチンコ依存問題についての電話相談サービスを無料で受け付けています。

03年全日本遊技事業協同組合の調査によると、ユーザー5,600人のうち、約30%の人たちが「自らをパチンコ依存」と回答しており、娯楽性の中に負の部分を提供してしまうリスクを抱えていることが浮き彫りにされています。

パチンコ依存の状態になると、パチンコを自分の意思ではコントロールできなくなり、次々と問題が生じ周囲の人たちを巻き込んで広がっていきます。借金や怠学・怠職などの問題が起きるまで深刻な事態が進行していることに、本人も周囲の人も気が付きにくい特徴があります。問題が広がり、深刻化する前に、少しでも早い段階での相談や問題への理解・取り組みが大切になります。

「リカバリーサポート・ネットワーク」は、パチンコ依存問題で苦しんでいるユーザー、家族のため回復につながる手がかりを提供するサービス機関です。

相談専用ダイヤル 050・3541・6420 (IP電話のため通話料がかかります)

受付時間 月曜～金曜(祝日は除く)の10時から16時まで。

車内放置による「乳幼児の事故防止対策」を強化

毎年夏に繰り返されている悲劇があります。車内に乳幼児を放置した結果、幼い命が奪われてしまう事故です。ちょっと気を付ければ未然に防げる事故だけに、ひとり一人のマナーアップが大切です。

真夏の炎天下にさらされた車内の気温は60度以上になります。安全であるはずの車内が、体温調節が未発達な子どもにとって、命を奪う危険な空間になるのです。医学的には「熱中症」と診断され、一刻の猶予も許されない事態となり、たとえ死に至らなくても脳や心臓障害の後遺症が残る場合もあります。



現場に遭遇した場合は、まず救急車を手配。待つ間、脳に近い部位(頭、首、脇の下)を重点的に冷やす応急措置を施すことが大切です。



福岡県警生活安全部生活環境課からのメッセージ

昨年、福岡県下では、約1万5000件の『車上荒らし』が発生しています。そのうちの約6割が、実はぱちんこ店を含めた駐車場での出来事でした。

また過去には、ぱちんこ遊技中に炎天下で長時間にわたって乳児を車内に放置していたことが原因で死亡したというような悲惨な事故も発生しています。

このような事件や事故を防止するため県内の各遊技場では、独自の駐車場の巡回活動に取